

平成 29 年 10 月 11 日

報道機関各位

勝山市立荒土小学校
校 長 道関 直哉

音読指導に白川文字学を生かす国語科授業を公開します。

勝山市立荒土小学校は、研究テーマを「思いを伝える言葉の力を磨く学習活動を創る」として、児童の言葉や文章による発信力を育てる授業研究に取り組んでいます。

この一環として国語科（1年生）音読指導の授業を公開します。この授業では、白川文字学による漢字の成り立ちについて理解（インプット）する活動を取り入れ、各自が漢字のイメージをからふくらませ動作化（アウトプット）することにより音読の力（表現力）を高めます。

福井県出身の白川静博士の業績をふるさとの宝として、いろいろな学習に白川文字学を活用する新たな取り組みとして、ぜひ取材いただきますようお願いいたします。

記

- 1 日 時 平成 29 年 10 月 27 日（金） 10:35～11:20（3校時）
- 2 会 場 勝山市立荒土小学校 1年教室
- 3 授業者 吉川 伊織 教諭
- 4 単元名・教材名
こえに だして よもう（1年生国語）
「くじらぐも」 作 中川 李枝子（なかがわりえこ）
- 5 授業の概要

教材に使用される「大」や「天」の成り立ちを知り、体で漢字を表現することによりイメージをふくらませる。このイメージをどのように音読すると良いか（表現方法）を考える。

【参考】白川静と白川文字学の活用

立命館大学名誉教授。漢字研究者。福井県生まれ。1943年（昭和18）立命館大学文学部漢文学科卒業後、同大学助教授、教授を務める。中国最古の字書『説文解字（せつもんかいじ）』の研究を手がけ、以後、甲骨文、金文（きんぶん）の研究に努める。長年にわたる漢字研究の成果を踏まえて、1984年『字統』、1987年『字訓』を刊行。1996年（平成8）には白川漢字学の集大成ともいえる『字通』を刊行した。（日本大百科全書）

福井県では、平成23年度より独自教材を作成し、県内全小学校の国語の授業において白川文字学を生かした漢字学習を行うこととしている。（1年生～4年生までは各10時間、5、6年生は各5時間）

本校においては、古代文字を漢字学習の他、校長講話や校内掲示などに生かして文字への関心を高めている。